

令和6年度 高鍋町立高鍋西小学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価） 4段階評価 【 A…よい B…概ねよい C…あまりよくない D…よくない 】

教育目標	生命の尊重を基本理念とし、地域・学校・家庭の機能を生かし、相互の連携を図りながら「たくましい体・豊かな心・すぐれた知性」をそなえた思考力・表現力・実践力のある児童を育成する。						
目指す学校像	○ きまりよい学校 ○ きれいな学校		（当たり前のことが当たり前にできる子どもを育てる学校） （清掃が行き届き、整理整頓がよく、花いっぱいの学校）		○ 夢のある学校 ○ 家庭・地域と連携する学校 【CS】	（互いの良さを認め合い、分かる喜びを大切にする学校） （つながり・絆を大切にし、子どもを育てる学校）	
目指す児童像	○ 元気な子ども ○ よく考える子ども		（しっかり食べて、明るく元気でがまん強い子ども） （よく見て、良く聞き、よく考え工夫する子ども）		○ やさしい子ども ○ 高鍋を大好きな子ども	（決まりを守り、思いやりの心を持ち、助け合う子ども） （ふるさとを愛し、誇りに思う子ども）	
目指す教職員像	○ 授業を創造・実践する教師 ○ 協力し合う教師				○ 子どもを伸ばし、子どもと伸びる教師 ○ 信頼される教師		
目指す保護者像	○ 子どもとともに学ぶ保護者 ○ 学校・地域と協力して子どもを育てる保護者				○ 子どもの将来を考え、愛情と厳しさをもち、的確なしつけのできる保護者		
本年度の重点 （教育的課題）	1 学力の向上 3 たくましい心と体	主体的・協働的な学びの実現、特別支援教育の推進 健康的な生活の習慣化、体力・耐力の向上、食育の推進			2 心の教育の充実 4 地域との連携	基本的な生活習慣の定着、互いを認め合うよりよい人間関係づくり 幼保小中連携の強化、保護者・地域と連携した児童の育成	

評価項目		方 策 ・ 手 立 て	評 価 指 標	自 己 評 価				学校運営協議会委員評価	
				指標別	総合	結 果 の 考 察 ・ 分 析	改 善 策 等	コメン	評価
たかなべ学校エンパワ―事業	授業改善等を中心とした子ども一人一人を伸ばすための「実効性のある」学校づくりの研究・実践	○ 協働的な学びを重要視した授業づくりの研究や相互授業参観を通して授業改善に努める。 ○ ICTの効果的な活用方法をテーマにした主題研究を展開し、職員のスキルアップに努める。	○ 校内における研究授業を3回行い、協働的な学びの在り方について協議を行う。 ○ タブレット及びデジタル教科書の活用方法を協議し、使用率の向上に努める。	A	A	○ 協働的な学びの場の効果的な設定の在り方や内容の定着の仕方などを学年部で考えることで、よりよい授業づくりに取り組むことができた。ICTの活用について、自己啓発研修を行い、指導技術を共有する機会をもつことができた。 ○ ケース会議を積極的に設け、よい支援の在り方を検討し、実践につなげている。 ○ 前年度同様、地域と連携した学習を行うことができている。報道関係で取り上げてもらうことで、取組を周知することができている。 ○ 学校運営協議会にて「子どもたちに期待すること」をテーマに熟議の場を設けたことで、地域と学校がともに向かうべき方向性を確認できた。 ○ 本年度も幼保小連絡会を実施し、次年度入学予定の児童について情報収集を図ることができた。 ○ 本年度は昨年度よりスクールカウンセラーとの協力体制も整ったので、情報交換や協議を通して、支援を必要とする児童や保護者に対して支援の充実を図ることができた。	○ ICTの効果的な活用法についてさらに研修を深めるとともに、職員差が小さくなるようにする。 ○ ケース会議のあり方を更に見直し、気軽に学校の諸問題を話し合える場を供給する。 ○ 地域資源を更に開発し、地域の力を生かした学習に取り組んでいく。 ○ 幼保小の連携を更に密にし、「切れ目のない子育て支援」を今後も継続する。 ○ 次年度もスクールソーシャルワーカー及びスクールカウンセラー等との連携した取組を行っている。	○ 職員の人数を確保していただきたい。 ○ 地域人材の活用を更に図ってほしい。 ○ 地域愛を育むための教育の充実に努めてほしい。 ○ 学校教育の大切さを再認識し、不登校児童ゼロを目指してほしい。 ○ コロナ前にあった行事がかなり削減されている。	A
	子ども一人一人に寄り添い、子どもの自己肯定感を高めるための特別支援教育・生徒指導の研究・実践	○ 子どもの認知面等の育成を図る「コグトレ」を実践していく。 ○ 児童の実態を的確に把握し、個に応じた指導を行う。	○ 週2回設定した「コグトレ」の時間を確実に実践している。 ○ 特別な教育的支援を必要とする児童には個別の指導計画を作成し、指導している。	B	B				
	学校、家庭、地域が一つになって高鍋町全体で子どもを育てる連携の在り方の研究・実践	○ 地域コーディネーターと連携し、地域素材を積極的に活用した教育活動を展開する。 ○ 学校運営協議会に熟議の場を設け、コミュニティ・スクールの活性化を図る。	○ 地域や保護者と連携した教育の充実に努め、70%以上の保護者が地域連携の充実を実感している。 ○ 熟議の場を設け、多様な意見を学校運営の参考にしている。	B	B				
	福祉課・健康保険課との連携による「切れ目のない子育て支援」の研究・実践	○ 幼保との連携を密にし、実態把握と指導の充実に努める。 ○ 子育ての支援を必要とする家庭に対して、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携し、支援の充実を図る。	○ 幼保小連絡会を実施し、就学前の児童の把握に努めている。 ○ 福祉課・健康保険課やスクールソーシャルワーカー、関係機関との情報交換や協議を行い、よりよい支援を行っている。	A	A				
	知 育	【学力の向上と定着】 ・学習規律・学習基盤の確立 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ・主体的な学習態度の育成及び思考力・表現力の育成	○ 一人一人の子どもに応じて分かりやすい授業を行っている。 ○ 子どもたちは授業中、進んで学習に取り組んでいる。 ○ 学習内容の定着のために、ICTを効果的に活用している。 ○ 家庭学習の習慣が身に付いている。 ○ 子どもたちは進んで読書し、本に親しんでいる。	B	B	○ 協働的な学びの場の設定について、研究を深め、共通理解・実践ができた。 ○ 児童へのアンケート結果において、わかりやすい授業について肯定的回答が80%以上となった。学力調査についても全国とほぼ同等の結果となった。 ○ 「家庭学習の手引き」を配付し、家庭訪問や学級懇談時に呼びかけ、充実を図った。 ○ ボランティアの方による「読み聞かせ」も計画的に実施することができ、本に親しませることができた。	○ 次年度は協働的な場々学びにおいて教科の幅を広げた研究を計画している。 ○ 次年度以降も、タブレットパソコンの持ち帰りを恒常的にを行い、個々の課題に応じた学習に取り組ませる。また、家庭読書（家読）の啓発を行う。	○ タブレットの活用が学向上につながっているか疑問である。 ○ 家庭での読書量が減っている気がする。 ○ タブレットの効果的な活用について充実してほしい。	B
徳 育	【命を大切にする豊かな心の育成】 ・基本的な生活習慣の定着 ・望ましい人間関係を築こうとする心の教育 ・落ち着いて行動できる児童の育成	○ すべての児童が元気にあいさつや返事が進んでできるようにする。 ○ 規律意識、よりよい人間関係の醸成を図る。 ○ 石井十次学習など様々な体験活動を通して道徳教育の充実と実体化を図り、思いやりの心、人権意識を育む。 ○ 保護者・地域との連携を通して、地域を大切にする心を育む。	○ 学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。 ○ 子どもたちは楽しく学校に通っている。 ○ 子どもたちは、笑顔で明るいあいさつや返事ができている。 ○ 子どもたちは基本的な生活習慣が身に付いている。	B	B	○ あいさつをする児童が増えてきている。ただ、校内であいさつはできているものの、校外でのあいさつは今ひとつのようである。 ○ 石井十次学習や道徳教育の充実を図ったことで、思いやりの心を育むことはできている。	○ 次年度は組織的な生徒指導が実現できるような取組を工夫していく。（一部教科担任制・学年担任制の試行など） ○ あいさつ週間など保護者・地域との連携を意識した取組を展開していく。	○ あいさつが増えてきているが、知らない人へのあいさつも増えると良い。 ○ 元気な子が多い。	B
	【たくましい心と体づくり】 ・健康的な生活の習慣化 ・運動に親しみ、健康でたくましい体の育成（体力向上） ・生涯にわたって楽しく明るい生活を営むための基盤づくり（食育、弁当の日）	○ 外部と連携した防災教育の充実を図る。 ○ むし歯治療率を向上させる。 ○ 体力テストを利用し体力を向上させる。 ○ メディアコントロールに積極的に取り組み、生活リズムを向上させる。 ○ 外遊びを奨励し運動の日常化を図る。 ○ 弁当の日を年2回実施する。	○ 学校は、健康でたくましい子どもを育てるために体力向上に努めている。 ○ 給食指導や食に関する指導の充実に努めている。 ○ 安全な登下校や危険から身を守る態度の育成に努めている。 ○ 子どもたちは生活リズムが身に付いている。	B	B	○ 体力向上に努めているものの、児童の体力は低下傾向である。また、肥満傾向の児童の割合が多い。 ○ 自分自身の生活習慣を確認する「すくすく週間」や「メディアコントロール週間」を実施することで、基本的な生活リズムを整えるきっかけとなっている。	○ 健康的な生活習慣について保護者への啓発を更に強め、学校と家庭が協力して取り組めるようにする。 ○ なわとび運動を基本とした家庭でのスポーツ（家スポ）の啓発を行う。	○ 体力の二極化が進んでいるように思える。 ○ 体力向上には家庭の協力が不可欠である。協力を促進してほしい。	

【次年度の方向性についての校長所】学力向上では、校内研修に「協働的な学び」を中心に授業改善に取り組んだ。まだ、改善する点はあるが職員の授業スタイルは確実に変化しつつある。また、ICTの効果的な活用についてはどの学級でも授業での活用頻度が上がり、家庭学習への移行も進んだ。徳育では、人と人とのつながりを意識し、地域人材や町内との連携を図り、非認知能力の育成に力を入れてきた。次年度は課題としてあがった体力の向上や基本的な生活習慣への取組を中心に、家庭との連携をさらに深めていきたい。